

## 障がい者スポーツ支援団体における発達障がい児支援プログラムの効果に関する研究

1220404 安部 明尚

指導教員 前田 和範

### **背景と目的**

発達障がい児が急増している一方で、国や地方自治体による通級指導教室などの支援が支援体制はかなり遅れており、それらの負担は教師や保護者に寄りかかっているとされている。こうした現状を踏まえ、本研究では、近年注目が集まっている運動やスポーツを通じた発達障がいの支援に焦点を当てる。運動やスポーツを通じた発達障害の支援には一定の効果が期待されている一方で、特定のプログラムに対する保護者の評価や、子ども達の変化に対する保護者の意見などが詳細にまとめられた研究は不足している。本研究の目的は、発達障がい児に対する運動・スポーツ支援団体のスポーツを通じた支援が、どの程度効果的なのかを明らかにすることである。

### **調査・分析方法**

高知県高知市の児童発達支援団体一般社団法人Uプロジェクト（以後、Uプロジェクト）が行っている放課後デイサービス（高知市、南国市、香美市）に通所する児童の保護者 34 名を対象に調査を行った。主に運動を行う放課後デイサービスやUプロジェクトスタッフとのコミュニケーションなどの発達支援を受けたことによる子どもの変化について、SDQ（Strength and Difficulties Questionnaire:子どもの強さと困難さアンケート、Goodman, 1997）を用いて、アンケート調査を行った。また、保護者視点では、通所する子どもがUプロジェクトに通い始める前の様子と現在の様子を比較して、変化したことについて自由記述欄形式で回答を収集し、内容を分析した。

### **結果**

SDQには、下位尺度が5つに分かれており、最も変化が起きていた下位尺度は、「行為の問題」であり、反対に最も変化が起きていなかった下位尺度は、「多動・不注意」であった。自由記述においては、それぞれの下位尺度に基づいてコメントを分類した。その結果、件数についてばらつきはあったものの、いずれ下位尺度分野についてもポジティブな変化を表すコメントが得られた。一方、5つの下位尺度に分類されないコメントも多く存在した。例えば、Uプロジェクトに対しての感謝の言葉や子どものモチベーションになっているといったコメントが抽出された。これらから、Uプロジェクトに通い始める前と現在ではポジティブな変化が起きていることが分かった。

### **考察・まとめ**

これらの結果から、Uプロジェクトの活動が寄与したことによって、子どもたちに多くのポジティブな変化が現れていることが考えられる。また、Uプロジェクトに対する感謝のコメントが多く見られたことから、Uプロジェクトは、発達障がい児の保護者の負担を少しでも軽減できていると言えるだろう。